



上野山清貢を偲ぶ

高橋北修

大正七、八年頃、旭川で、カムシユツペ画会の第一回展を開いた。その時、上野山清貢が、旭川に帰省していたので、彼に作品を出品して貰った。飾りつけの日、彼が、当時流行の外国映画の海の怪人のようなスタイルで、会場にやつて来た。十号くらいのくるすんだ裸婦を二点、裸婦の顔が俗っぽいといいながら、会場でいきなり裸婦の顔を、全部塗りつぶして、そのまま飾ったことをおぼえている。

その後、私は関東大震災の翌年、早稲田の面影橋ぎわの、美術印刷の画工をしながら、当時の本郷洋画研究所に通っていた頃、同じ会社の画室で林という中野から通ってくる画工が私に、彼の、いつも通る路筋にこの頃妙な格好の絵描きらしい男が、自分で家を建てて、きのうきようは、屋根に上つて桎を葺いていると聞かされ、それが上野山であることをすぐ感じたので、翌日一升ぶらさげて林と一緒に、中野の新井薬師の境内を通りぬけて、麦畑の一本道を何丁かいった所で、上野山の家を見つけた。小さな家で、おそろしく急勾配の屋根が目についた。丸太の門柱に赤い油絵具で上野山清貢と自筆の表札がかけてあつた。戸のかわりに一枚のむしろがぶら下つていた。その時は、だれもない様子なので、林の家で、持参の酒を空け、夜になつて、田んぼの中を駆けながら上野山の家を訪れて以来、ひんぱんに上野山の家を訪れるようになった。当時上野山が毎年の帝展に落選を続けて、もつとも失意の時代であつた。現在札幌に住む黒瀬氏が、それ以前から上野山と行を共にしていた。

紙製品事務用品文房具販売

株式会社

服部紙店

札幌支店

札幌市北大通西二丁目 電話(3)5561

各代理店

千住製紙株式会社
本洲製紙株式会社
東北パルプ株式会社
十条製紙株式会社
北日本製紙株式会社
苫小牧製紙株式会社

落選十回目などと彼は、誇っていた。まことに子煩悩で、小さな子を、いつも膝の上に抱いて、子供がおしつこすると、子供の小便は水晶のように美しいと、目を細めながら、平気でたれ流しさせていた。当時の画壇で、相当の地位の牧野虎雄画伯と、特別の親交があつて、私も一度上野山の紹介状を持つて、牧野さんを訪れたが、その時牧野さんから、日本でホントウの絵描きは上野山一人だと聞かされた。私は、今までに上野山の作品を随分見る機会が多かつたが、その頃の時代の作品が好きで、今でもハッキリとおぼえている。素朴で力強く、ねばり強い仕事を何枚も、つきつきと描いていた。どの作品も完成しないで、未完成のまま新しく描きまくつていつた。それでも、当時の画壇では、一応上野山の名が通り、絵よりも、先の女流作家白木しず子さんの夫君として、彼の名文が当時の新聞紙上に発表されていたのを知っている。広津和郎、林芙美子、正宗白鳥らの文壇人と画家の関根正二らが親しかつた。

その翌年、私が旭川に戻つて、上野山がはじめて「とかげをもてあそぶ夢見る島の少女」で文展に初入選したことを知つたとき、上野山のアトリエで見た、未完成の沢山の絵が、私の目の前に浮んだ。三回目の「パラダイス」が特選、続いて「室内」「F嬢支那服を纏える」と連続三回の特選で、文展無鑑査になつた頃は、鮮やかにますい絵描きの名称を返上した。熊岡、牧野さんらの塊樹社に赤いチョッキの自画像を發表以来、名声は一躍画壇に高まつた。しかし上野山の放浪性はますます続いたようだ。塊樹社の熊岡美彦が牧野さんと分れて東光会を組織したのは、私が文展に初入選したときで、その時は上野山が室蘭の地球岬の燈台を三百号に描いた「嵐の前」を出品した。その頃から真駒内の馬の群像、ライオン、広田外相などの出品作は次第に一貫した作風を備え始めた。それまでを前期とし「嵐の前」以後を後期とに区分出来るほど、彼の作品は達者になつていつた。前期の頃は主に上海方面に放浪し、「嵐の前」以後は故郷である北海道に放浪した。魚、鶴、阿寒風景など、まさに名人芸として道内有者に歓迎されたが、私は、彼の名人芸の域に達することが寂しかつた。かくして上野山の作品は、ますます鍊達の度を加えていつたが、晩年になつて、体の調子を悪くして心の焦りが作品に現れだした。

一昨年から全道展出品の、絵具の盛り上つた魚の絵、昨年百号の「百合の花」と自画像など、晩年を飾るにふさわしい仕事を残しているが、それらの作品の奥には、最後のものを残そうとする芸術家の悲壮な鼓動が秘められている。郷土のもつとも特異性のある画家としてもつと長く生きてほしかつた。

夏山は呼ぶ!

完全な装備は登山靴から..

ビムラム・ナーゲル・スキー靴各種

三浦靴店

サッポロ南1西8 TEL 3-901

